

# 前年度の改善方策について実行した改善結果

令和8年3月

## (1) 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、柔軟な考え方ができ、主体的に課題を解決し、相手を認め互いのよさを尊重し、心身ともに健康で、富士の学び舎代沢小学校を愛し、「自分で、進んで、負けないで」を実践できる児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

## (2) 学校の重点目標

「みんなの子どもをみんなで育てる みんなの学校をみんなで創る」を合言葉 に学校・家庭・地域が一体となり、急激に変化する社会の中で、児童一人ひとりが 社会の担い手として自ら課題に向き合い、判断し行動して、それぞれが思い描く 未来の実現を図ろうとする児童の育成を目指す。

◎異学年交流や地域との交流などを通して「人と関わる力」等の非認知的能力を育むとともに、自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育てる「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。

◎教員のICT機器の効果的な活用力を向上させ、学びのデータを基に、児童一人ひとりに応じた多様な学びの機会を提供することで「個別最適な学び」の充実を図る。また「せたがや探究的な学び」や体験的な活動を通じた「協働的な学び」も充実しながら、授業改善を推進する。

◎児童が多様な個性を認め尊重し合い、共に学び、共に育つ教育を推進する。学校・学年・学級に支持的風土を育み、児童に関わる全ての教職員の情報共有を基に個性や能力、発達特性等の多様性を理解し、多角的な児童理解に努め、いじめ・不登校・障害等の特別な配慮を必要とする児童への指導を充実する。

◎学校支援コーディネーターと連携し、地域教育力を積極的に活用する。保護者や地域の人材、専門家等によるゲストティーチャーを授業に招聘して、出前授業を数多く取り入れ、地域とともに児童を育て、地域が参画する学校づくりを推進する。

◎学校全体で組織的なカリキュラムマネジメントを行い、教師の負担過多にならない教育課程を実施し、児童にとって有益な教育活動を推進する。

## (3) 次年度に向けた改善方策

①代沢小の子どもたちが、Agencyを発揮できるような指導を目指す。「教材研究」、「子どもに任せることころ」「主体的に学んでいる姿」を明らかにして授業準備をしていく。

・「代沢スタディスタイル」による主体的、対話的な学習の推進については成果があるので継続する。この中で、考えを表現する場をより増やしていくようにする。

・タブレット活用については、集団思考を深める活用方法を開発することを継続する。

・「みんなで使えるもの」を共有することで合理化し、昨年度に引き続き、時間の確保及び仕事の効率化を図る。

○児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりが、児童や保護者にも伝わっていて大きな成果として表れている。また、学校運営については、保護者や地域の理解を得られている。学校の重点目標が保護者にも地域にも伝わっている。

○タブレット活用については、意欲の向上になっているが、基礎基本の定着には活用できていないことが課題である。どのようにしたら基礎基本の定着を図ることができるのか検討が必要である。また、課題解決のためのタブレットの効果的な活用についても、課題が残る。

②人権意識の向上、互いのよさを認め尊重し合うあたたかい風土をつくり、教職員・児童相互の好ましい人間関係を築く。

・「ひともしぶんも大切に～聞いて、聴いて、考える～」を生活指導目標とし、代沢しぐさを「あいさつ、話の聴き方・伝え方、くつそろえ」の3つにしぼり、人を大切にすること、よく聞き(たずね)よく聴き(受け止める)考えることで学校生活を気

持ちよく過ごせるようにしていく。

- ・いじめ・不登校・問題行動は早期発見・早期対応を教職員で連携して対策を行う。
- ・廊下歩行等生活面の課題に対しては、週目標だけでなく、新学期に廊下歩行の強化月間を設けるなど、具体的な手立てを講じ、全校全体で取り組む。

- 組織的な対応、情報共有による効果が見られ、談話ルームなど廊下に出ている児童、飛び出し児童が減った。
- 特別支援教室などの特別支援対応について、情報共有が不十分なことが課題である。

- ③異学年交流、地域との交流などを通し「人とうまく関わる力」等の非認知的能力を高めるとともに、キャリア教育「自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育もう～書いて、見つめて、価値づけよう～」を推進し実感の伴った学習や取組の充実を図る。
- ・児童が目標を意識し、前向きに自信をもって生活していけるようにする。そのために、キャリアパスポート、めあてカードなどの活用を工夫していく。また、児童が自らを見つめ、価値付けられる時間を設定し、教員による、児童のめあてを意識した対話的なかわりをもつようにする。
  - ・学級活動やせせらぎ班活動等での役割を明確にし、めあてと振り返りのサイクルを確立する。
  - ・児童がそれぞれの役割で補い合って活動することを通して、「人と関わる力」を伸ばせるようにする。

- 実行委員の取組等、児童の主体性を大切にする活動が、児童の充実感へつながっている。
- 「キャリア教育」について、保護者への啓蒙が課題である。

- ④目的意識をもったICT機器の活用で、児童の学びの質を高める。児童も保護者も安心できる「スピーディー&確実、快適」なICTの効果的な活用を図っていく。
- ・ロイロノートを使った共有財産の構築を行い、余裕をもった教材研究の実現を図る。
  - ・クラスの友達の意見を多面的に見て、集団思考を深めていくための共同作業をICTや実際の話し合い等で取組み、児童双方向のかかわりに深みをもたせるようにする。
  - ・ルールを守ってタブレットを扱う習慣を身に付け、段階的にタブレットルールのバージョンアップを図る。

- タブレットを概ね「効果的に利用している」児童が多い。
- タブレットの使い方のルールの徹底が課題である。

- ⑤同じ意識をもって学習指導にあたり、子どもたちの力を伸ばしていくようにする。また、教員間で活動の意図を共有すると共に、保護者には「学習活動にどんなねらいがあるのか」分かりやすく伝達していく。
- ・学年がかわっても児童が混乱しないよう、共通した意識で授業ができるよう学習環境を整える。
  - ・共通した掲示物等により、身に付けさせたい知識を「見える化」していく。
  - ・宿題を自主的に学ぶしなを盛り込むなど、代沢小として「自主性」を育むための取組を検討し、共有する。

- 各学年専科で情報を共有し、日々授業改善を図ることで児童にとって楽しい授業が行えている。その楽しさが、児童の意欲を引き立て確かな理解へとつながり、児童にとっての「ていねいな指導」につながっている。

- 学び舎による幼小中の連携や交流活動について、保護者の認識が低いことが課題である。

- ⑥健やかな身体づくりをめざし、運動に親しませる機会を大切に、運動量を確保する。さらに、「情報の発信」「家庭、地域等との連携」「児童の体力向上」に努めていく。
- ・学校便り・保護者会・HPを通して、学校での取組を発信していく。また、児童や教職員にも学び舎の取組を朝会等で発信し、各学級でも実践できるようにしていく。
  - ・学校便り・保護者会・HPを通して保護者が重点目標を目にする機会を増やす。行事の案内や様子を発信し、保護者にもす

すんで参加してもらえようにする。

・今年度同様ランランタイム（体力向上の取組）では、校庭・体育館を使用して、児童の運動量を確保する。

○ランランタイム（体力向上の取組）では、低学年から継続して実施することにより、児童がすすんで取り組む習慣ができています。

○「情報の発信」「家庭、地域等との連携」については、昨年度に引き続いて課題が残った。